

ベルマーク新聞 2月号

発行 公益財団法人ベルマーク教育助成財団 東京都墨田区両国3-25-5 JEI両国ビル9階 〒130-0026 電話 03-5638-2320(代表)
郵便振替口座 00100-7-56035 ホームページ <https://www.bellmark.or.jp/>

「理科をもっと好きになってほしい」

 三重・鳥羽市立答志小で理科実験教室

⑤ペンシルバルーンを使った実験は、「自分もやってみよう」という子が続出 ⑥⑦水の入ったペットボトルを使った実験 ⑧⑨ワークショップにも真剣に取り組んだ

三重県の鳥羽市内から定期船に乗って約20分。答志島は鳥羽市最大の離島で、伊勢湾の入り口に位置します。

島の唯一の小学校が市立答志小学校(廣川清治校長、児童42人)。同小の体育館が、今回の理科実験教室の会場です。財団のへき地校支援事業のひとつとして、12月7日に開かれました。

講師はNPO法人サイエンスものづくり塾エジソンの会(華井章裕代表)の6人です。会の皆さんは子どもたちが体育館にやってくるずっと前から、そろいの黄色いポロシャツに緑のエプロンというスタイルで、準備をしていました。実験後に子どもたち一人ひとりが作品を作るワークショップの準備もしっかり整いました。

午後1時、全校児童が集合。授業の

詳細はまだ知らない子どもたちの表情からは、ドキドキワクワクしているのが伝わってきました。

まずは華井さんのサイエンスショーからスタート。華井さんが「理科の実験が嫌いな人は手をあげて!」と聞くと、お互い顔を見合わせながらも誰も手をあげません。「もっともっと理科の実験を好きになれるよう、いろんな実験の準備をしてきました」

華井さんが最初に披露したのは、色とりどりのペンシルバルーンを使った実験。バルーンが飛んできたと思ったら、空中でパンと破裂しました。「やってみよう?」との問いかけに「はい!」と一斉に手があがりました。そこから、実験ラッシュです。手のひらの上で、一瞬で燃えて消える不思議な綿には大きな

反応がありました。

中でも、本格的だったのは液体窒素を使った実験。それまで笑顔だった会の皆さんが真剣な表情になりました。なぜなら、マイナス196度の液体窒素の取り扱いは難しいからです。「液体窒素でいるんなものを凍らせたらどうなるかな」と華井さん。風船に入れた酸素や二酸化炭素、バナナ、ティッシュペーパー。そして、子どもたちがそれぞれ持ち寄った野菜や花。どのように変化するかを興味津々で見つめていました。

実験のあとのワークショップで工作したのは「CDでホバークラフト」「くるくるレインボー」「人工イクラで遊ぼう」「遠くへ飛ばそう紙飛行リング」。どれも楽しそうな名前です。作りたいものを選び、グループに分かれて、会の皆さんや

先生の助けも借りながら、一生懸命作り上げました。

児童に感想を聞くと、「ワークショップで作ったものも、理科の勉強につながっていることがわかり、嬉しかった」と話してくれました。「今日はみんなでたくさんのことを学ぶことができました。本当にありがとうございました」と児童代表が教室を締めくくりました。

実験もワークショップも
たのしかったね!!



日本人学校の支援先4校決まる

 2022年度の支援先は合計265校

ベルマーク財団が毎年実施している日本人学校支援の2022年度対象校が決まりました。中国の杭州日本人学校幼稚部、イギリスのテルフォード日本人補習授業校、アメリカのクリーブランド日本語補習校、フランスのアルザス補習授業校の4校です。それぞれの学校が希望する教材や備品を贈ります。

日本人学校への支援は1991年度から実施してきました。これまで支援してきた学校は、今年度分を含めての

べ274校です。

今年度は、全国のへき地学校100校、特別支援学校45校、海外の日本人学校4校に希望の備品・教材を、岩手・宮城・福島3県の東日本大震災被災校112校には希望の備品やバス代を、4つの院内学級にはタブレット類などを届け、計265校を支援することができました。皆様のご協力があって、毎年継続した支援を実現できています。ありがとうございます。



昨年度の支援先、アメリカの西大和学園カリフォルニア校